

今月の安全運転管理

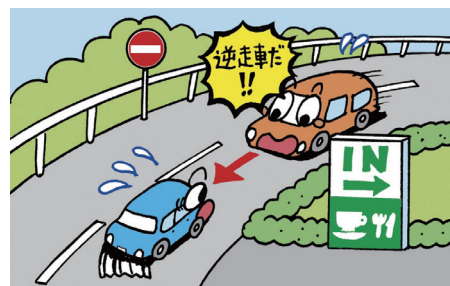
逆走! 自分と他人を危険にさらす

①高速道路での事故防止を指導しよう

- 逆走防止を指導しよう
- 高速道路での事故防止策を周知しておこう

②夏休み中の子どもとの事故を防止しよう

- 生活道路での危険予測と安全確認を徹底させよう



逆走防止を指導しよう

高速道路での逆走による事故が多発しています。国土交通省によると、高速道路の逆走は毎年二〇〇件程度、概ね二日に一回の頻度で発生しています。六月には、中央自動車道のトンネルで、十九歳の男性が運転する車が逆走して、ほかの車と正面衝突する事故が発生しました。

夏休みで帰省やレジャーにより高速道路の利用が増えるこの時期に、従業員に逆走の防止を指導しておきましょう。

逆走の原因の一つがインターチェンジやジャンクションでの道の間違いです。インターチェンジやジャンクションでは、進行方向を示す標示等が設置されています。とくに「進入禁止」「出口」といった標示に十分注意し、進む方向を再確認するように指導しましょう。

また、逆走車は追い越し車線を走行してくる傾向があるため、情報板やラジオなどで逆走車の情報を見聞きしたときは、通行帯の最も左側を走行するように指導してください。

高速道路での安全運転を指導しよう

高速道路を安全に走行するために「スピード抑止」、「早めの休憩」、「事前

の給油」の徹底を指導しておきましょう。

高速道路でのスピードの出すぎは運転ミスにつながるほか、長時間の運転は漫然運転や居眠り運転に陥りやすくなります。

また、高速道路上でのガス欠による急なスロウダウンや路肩への駐車は、追突事故などを誘発する危険があります。

高速道路では、ちよつとした油断やミスが重大事故につながります。高速道路での安全運転を徹底させて事故防止を図りましょう。

生活道路での危険予測と安全確認を徹底させよう

夏休みが始まり、普段は見かけることのない時間帯に屋外で遊ぶ子どもが増えることから、しつかり対策をしておく必要があります。

こどもは判断力が未熟なことから、車が接近していても飛び出してくることがあります。また、電柱や駐車車両の死角に隠れて見落としやすくなります。

そこで、見通しの悪い交差点や公園周辺に差しかかったとき、駐車車両の側方を通過するときなどは、こどもの飛出しを予測するとともに、安全確認をしつかり行うなど慎重な運転を徹底するように指導しておきましょう。